

令和8年度

日和佐中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- ICT機器や言語活動を効果的に活用し、思考力・判断力・表現力を育成する。

校長

森 篤之

学力向上推進員

東甫 英佑

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

研究授業やオープンクラス等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業や家庭学習に真面目に取り組む生徒が多い。 ○タブレット等を活用しながら学習を進めることができる。 ●基礎・基本の定着に個人差があり、学習内容の理解が十分でない生徒がいる。 ●家庭学習の習慣に課題が見られる。	・基礎的、基本的な知識や技能を身につけ、学習や生活の中で活用できる。 ・毎日の家庭学習や提出物に計画的に取り組むことができる。 ・自分に合った学習方法を見つけ、継続して学習できる。	・単元の導入やまとめでICT機器を活用し、視覚的に理解しやすい授業を行う。 ・小テストや振り返り活動を継続的に実施し、定着状況を把握する。 ・家庭学習の内容や方法を具体的に示し、学習習慣の定着を図る。 ・個に応じた支援や補充学習を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを交流する活動に意欲的に参加する生徒が多い。 ○グループ活動やペア活動に前向きに取り組むことができる。 ●根拠をもとに説明したり、文章で表現したりすることに課題がある。 ●記述式問題や応用問題への対応力に差が見られる。	・根拠を明確にししながら、自分の考えを説明することができる。 ・相手の意見を受け止め、自分の考えを深めることができる。 ・学習した内容を活用して課題解決に取り組むことができる。	・グループ活動やペア活動を計画的に取り入れ、対話的な学びを充実させる。 ・理由を説明したり、自分の考えを書いたりする場面を授業の中に設定する。 ・ICT機器を活用し、意見の共有や発表活動を行う。 ・記述問題や活用問題に継続的に取り組ませる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学校行事や係活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○自分の役割を果たそうとする姿勢が見られる。 ●受け身的に学習する生徒がおり、自ら課題を見つけて学ぶ力に課題がある。 ●学習への自信や達成感を十分に持てていない生徒がいる。	・目標をもって学習に取り組み、粘り強く努力できる。 ・学習を通して達成感や自己肯定感を高めることができる。 ・自ら課題を見つけ、解決に向けて行動することができる。	・授業のめあてや振り返りを明確にし、学びの実感をもたせる。 ・生徒が選択したり考えたりする場面を授業に取り入れる。 ・学習過程を認める声掛けを行い、自己肯定感を育てる。 ・ICT機器や多様な教材を活用し、生徒の興味、関心を高める。			